

第2章 個別調査の概要_水質_pH、濁度、D0、BOD、TN、TP、水温、SS 他（水質定期観測）

1 調査内容

- (1) 調査の目的
- ダム撤去工事中及び撤去後において、貯水池内及びダム下流の水質の状況を把握する。
- (2) 調査日
- 平成 22 年度において、毎月 1 回、採水・分析を実施した(ダム直上流では毎月 1 回以上実施)。
- (3) 調査地点
- 以下の 4 地点とした。
- ①ダム直上流

(ダム取水口)
- ②瀬戸石ダム下流

(瀬戸石ダム下流 1,400m)
- ③破木橋

(破木橋直下流)
- ④道の駅坂本

(減水区間 潜水橋)

2 調査結果

- (1) 平成 22 年度における水質調査結果の概要は、下表のとおりであった。
- (2) ゲート開放前(平成 18 年度～平成 21 年度)と開放後(平成 22 年度以降)の水質の全体的な傾向は、下表のとおりであった。

調査項目	平成 22 年度（ゲート開放後）	平成 18 年度～平成 21 年度（ゲート開放前）
水素イオン濃度（pH）	いずれの地点も環境基準(河川 A 類型)を満たしていた。 「③破木橋(百済木川)」では、他の地点(球磨川)に比べやや高めの値で推移した。	「②瀬戸石ダム下流」を除き春季～秋季にかけて一時的に環境基準(河川 A 類型)を満たさなかった。
濁度	「①ダム直上流」では、5～7 月の出水に伴い上昇した。出水時以外は、全体的に顕著な変動は見られなかった。	出水に伴い上昇した。出水時以外は、全体的に顕著な変動は見られなかった。
溶存酸素量（DO）	いずれの地点も環境基準(河川 A 類型)を満たしていた。	「①ダム直上流」で春季～秋季にかけて一時的な上昇が見られた。
生物化学的酸素要求量(BOD)	いずれの地点も環境基準(河川 A 類型)を満たしていた。	「②瀬戸石ダム下流」を除き春季～秋季にかけて一時的に環境基準(河川 A 類型)を満たさなかった。
全窒素（T-N）	全体的に顕著な変動は見られなかった。	全体的に顕著な変動は見られなかった。
全磷（T-P）	「①ダム直上流」では、主に 6～7 月の出水に伴い上昇した。出水時以外は、全体的に顕著な変動は見られなかった。	主に出水に伴い上昇した。出水時以外は、全体的に顕著な変動は見られなかった。
水温	いずれの地点も気温の変動に連動した季節変動を示した。	顕著な変動は見られなかったが、昨年度に比べ全体的にやや低めで推移した。
浮遊物質（SS）	「①ダム直上流」では、5～7 月の出水に伴い上昇し、一時的に環境基準(河川 A 類型)を満たさなかった。出水時以外は、全体的に顕著な変動は見られなかった。	出水に伴い上昇し、一時的に環境基準(河川 A 類型)を満たさなかった。出水時以外は、全体的に顕著な変動は見られなかった。

＜参考資料：P5～9＞



※この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(坂本、中津道)を背景図として使用したものである。

水質定期観測結果グラフ【 pH、BOD 】

